デポーの主体は地域の組合員

デポーは、東京全体の事業であるが、「ブロック単協」や「まち」の活動方針に沿って運営され、組合員が運営に携わる。そのため、一般のスーパーと違って、デポーの出店は地域の組合員の理解と協力がなければ始まらない。デポー建設にあたっては、該当の「まち」や生活クラブ運動グループが建設委員会をつくり、組合員拡大をしながら、どのようなデポーにしたいのか話し合いながらすすめられる。また、デポーでは配送とは別の独自の流通経路による地場野菜や鮮魚、地域のワーカーズがつくるお弁当やパンなどにも取り組んでいる。

フロアーワーカーズ

デポーの日常的な店舗運営はワーカーズ・コレクティブであるフロアーワーカーズが担う。フロアーワーカーズの募集は、ブロック単協や「まち」、デポー建設委員会で共有され、地域から人材を募る。地域の組合員でもあるワーカーズがデポーの事業運営を支えていくことは、売り手と買い手を固定させず、組合員がデポーを運営していることを明確にするという意味で大変重要な要素となっている。フロアーワーカーズは、組合員とともにデポーの拡大・利用・まちづくり活動をすすめ、〈消費材のメッセージ〉を組合員や地域に伝える活動の主人公となる。

ワーク 組合員の労働参加

デポーのフロアー業務に組合員が参加するのが「ワークシステム」。「ワーク」は、あらかじめ登録した組合員が、デポーのさまざまな作業に参加し、その作業によって削減された経費の一部をその組合員に還元するしくみである。「ワーク」1時間あたり450円の還元とし、デポーでの購入代金に換えることができる。「ワーク」には、品出しや野菜の袋詰めをする「フロアーワーク」やニュース類を配布する「情報ワーク」、年末予約品の仕分けや受渡しをする「年末ワーク」などがあり、労働参加とデポー運営の共感の場をつくっている。